
「誰ひとり、取りこぼさない教育を」

不登校および不登校傾向の
生徒に向けた
包括支援プラン（福山市立城東中モデル）

ガイドブック



はじめに

本書は、不登校やその傾向が見られる生徒に対し
個別最適な支援を継続して行うことで、
生徒が抱えているさまざまな課題の解消と自立をめざすガイドブックです。

生徒一人ひとりの家庭環境、生活・身体、心理状態、学習面などを
ふまえた包括的なサポートを提案する【5つの施策】と、
情報を共有・管理する【情報共有プラットフォーム】を活用することで、
教員をはじめとする関係者がより効果的な支援を行うことができます。

「10の
支援方針」
の設定

情報共有
プラットフォーム
の活用

学びの場の
提供と
支援体制の
モデル化

専門的ケアの
理解を深める
研修

アセスメント
による
個別最適化

本書の使い方

本書は、Chapter1からChapter3までの三部構成になっています。目的や用途に合わせて活用してください。

概要

Chapter1 包括支援プランの概要

支援プランの具体的な施策や、どのような体制で進めるのかをくわしく説明しています。



【主な対象者】 支援プランに関わるすべての関係者

包括支援プランの実施においては、直接的な生徒への介入の有無にかかわらず、学校内の教育関係者全員が、支援の目的や内容を理解しておく必要があります。

校内で本資料を使ったオリエンテーションを行い、情報を共有する機会を設けてください。

運用方法

Chapter2 情報共有プラットフォームの使い方

施策【2】で使用する「情報共有プラットフォーム」の運用方法と作り方を紹介しています。



【主な対象者】 生徒との関りがある教員や支援者

生徒への支援状態を把握する「情報共有プラットフォーム」を作成する場合は、本章のデータ共有の方法を参考にしてください。また、システムを作る際の見本となるエクセルデータを、別途用意しています。

【別添の配布資料】

- ・学びのカルテまとめ.xlsx
- ・学びのカルテ1・2項目例.xlsx

学習資料

Chapter3 学習支援の方法

施策【1】の「10の支援方針」⑧⑨⑩に該当する学習支援の進め方や資料をまとめています。



【主な対象者】 学習支援を行う教員や支援者

インターン（大学生など）とともに生徒への学習支援を行う際は、本章を参考にしてください。必要な資料ワークシートも掲載していますので、必要に応じて出力し、活用してください。また、学習支援の開始時に行うレクチャー用資料も別途用意しています。

【別添の配布資料】

- ・学び方を見つける教室_スライド.pdf

目次

Chapter1 包括支援プランの概要

包括支援プランの目的	……6
包括支援プランとは	……7
現場の困り感を解消する5つの施策	……8

施策【1】「10の支援方針」の設定

施策【1】-1 「10の支援方針」と4つの要因	……10
施策【1】-2 4つの要因に当てはまるケース	……11
施策【1】-3 「10の支援方針」の概要	……12
施策【1】-4 支援方針の選択に役立つ「支援フロー」	……13
施策【1】-5 「10の支援方針」による支援の流れとサイクル	……14

施策【2】情報共有プラットフォームの活用

施策【2】-1 情報共有プラットフォームとは	……16
施策【2】-2 情報共有プラットフォームの全体像	……17
施策【2】-3 学びのカルテの種類と役割	……18
施策【2】-4 情報共有プラットフォームを使った記録の流れ	……19

施策【3】学びの場の提供と支援体制のモデル化

施策【3】-1 サポート体制の両輪	……21
施策【3】-2 多様な「学びの場」の提供	……22
施策【3】-3 校内フリースクール（支援ルーム）	……23
施策【3】-4 チームによる支援体制	……24
施策【3】-5 協働支援者・関連機関との連携	……25
施策【3】-6 SCとSSWの役割	……26
施策【3】-7 NPO法人、民生児童委員、訪問支援員の役割	……27
施策【3】-8 インターンの役割	……28
施策【3】-9 インターンによる学習支援	……29
施策【3】-10 包括的な支援の流れとサイクル	……30

施策【4】専門的ケアの理解を深める研修

施策【4】-1 専門的ケアの研修	……32
施策【4】-2 研修テーマの実例	……33

施策【5】アセスメントによる個別最適化

施策【5】-1 アセスメントによる個別最適化	……35
施策【5】-2 アセスメントの分類と目的	……36
施策【5】-3 アセスメントの例	……37

目次

Chapter2 情報共有プラットフォームの使い方

情報共有プラットフォームのしくみ	……39
「学びのカルテまとめ」と「学びのカルテ1・2」の関係	……40
「学びのカルテまとめ」の内容	……41
「学びのカルテ1」の内容	……42
「学びのカルテ2」の内容	……43
支援の流れとサイクルの詳細①	……44
支援の流れとサイクルの詳細②	……45
見取りと手立ての内容を分析して評価する①	……46
見取りと手立ての内容を分析して評価する②	……47

情報共有プラットフォームの作り方

「学びのカルテまとめ」の作り方①	……49
「学びのカルテまとめ」の作り方②	……50
「学びのカルテ1・2」の作り方①	……51
「学びのカルテ1」「2」の作り方②	……52
「学びのカルテ1」「2」の作り方③	……53
「学びのカルテ1」「2」の作り方④	……54

Chapter3 学習支援の方法

3つの学習支援の目的	……56
教員とインターンの協力体制	……57
インターンの役割	……58
インターンと生徒の「ラポール形成」	……59
【フローチャート】「ラポール形成」の流れ	……60
【解説】「ラポール形成」の流れ	……61
【フローチャート】「学習支援」の流れ	……62
【解説】「ラポール形成」の流れ	……63

ラポール形成・学習支援資料集

ラポール形成・学習支援 資料一覧	……65
------------------	------

【ラポール形成】

01 「学び方を見つける教室」レクチャーガイド	……66
02 ラポール形成の心得	……73
03 ラポール形成のアクションプラン	……83

【学習支援】

04 生活学習の基本ルール	……91
05 ワークショップの概要	… 100
06 探究学習の基本ルール	… 112
07 教科学習の基本ルール	… 132

別途配布ファイル

- ・包括支援ガイド_別添_学びのカルテまとめ.xlsx
- ・包括支援ガイド_別添_学びのカルテ1・2項目例.xlsx
- ・包括支援ガイド_別添_学び方を見つける教室_スライド.pdf

Chapter 1

包括支援プランの概要

包括支援プランの目的

目的

- ◆不登校またはその傾向がある生徒の課題やニーズを見極め、適切な支援を行います。
- ◆そのための方法を整備・標準化することで、継続的な支援を可能にします。
- ◆生徒一人ひとりの特性や進度に沿った、学びの機会を提供します。

【支援によってめざす、生徒のすがた】

- 【1】 学びへの意欲を取り戻す。
- 【2】 学力だけではない、社会に適応できる力を備える。
- 【3】 自身に合う進路や将来について真剣に向き合う。
- 【4】 自分を知る。
- 【5】 困ったときに、大人に相談することができる。

対象となる生徒

- ◆不登校またはその傾向がある生徒
- ◆授業内容についていけないため、教室に通えなくなった生徒
- ◆教室に入ることや集団生活に抵抗を感じている生徒 など

包括支援プランとは

支援の
最適化
Optimization



支援の
共有
Share



支援の
継続
Continuation

この包括支援プランは、「福山市立城東中モデル」をベースに、支援の「最適化」「共有」「継続」という3つの観点から作成されたものです。

- ◆**最適化**…さまざまな支援内容のなかから、優先度が高いとされるものを予測し、生徒一人ひとりの実状に合わせた支援を行います。
- ◆**共有**……支援の内容や効果を言語化、共有することで、次の有効な手立てを検討しやすくします。また、蓄積された情報をノウハウとして活用することで、チームの推進力を高めます。
- ◆**継続**……「支援のサイクル」を仕組み化し、生徒の学年や担当教員、環境などが変わっても、つねに適切な支援を受けられるようにします。

「福山市立城東中モデル」とは？

東京大学客員研究員・福本理恵氏（株式会社SPACE代表）が提唱し、2019～2021年度に、広島県福山市立城東中学校において、経済産業省（未来の教室）実証事業として実施・検証された支援モデル。

現場の困り感を解消する5つの施策

包括支援プランは、現場の困り感を解消するために、以下の5つの施策で構成されています。

現場の困り感

不登校の要因が複雑すぎて、
最適な支援がわからない……

見取りや手立ての情報がバラバラで
支援の全体像が見えない……

支援や対応がバラバラで
一貫した支援を継続できない……

どのようなタイミングでSCやSSWに
つなげばよいのか、わからない……

日々の見取りだけでは、生徒の
現状を把握できない……

5つの施策

施策【1】「10の支援方針」の設定

支援の方向性を分類・明確化することで、生徒の実状に合わせた適切な支援内容を選択する。

施策【2】 情報共有プラットフォームの活用

日々の見取りや手立ての記録をデータとして蓄積し、その情報を共有することで、より有効な手立てにつなげる。

施策【3】 学びの場の提供と支援体制のモデル化

多様な学びの場の提供と、チームとして支援サイクルを回す体制をモデル化することで、一貫した支援を継続する。

施策【4】 専門的ケアの理解を深める研修

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどが果たす役割への理解を深め、スムーズな外部連携をはかる。

施策【5】 アセスメントによる個別最適化

生徒の状態を把握して不登校の予防に役立てる。または、生徒の個性に合わせた学びの機会を提供する。

不登校の要因が複雑すぎて、
最適な支援がわからない……

施策【1】 「10の支援方針」 の設定

支援の方向性を分類・明確化することで、
生徒の実状に合わせた適切な支援内容を選択する

施策【1】-1 「10の支援方針」と4つの要因

「どこから手をつけてよいのかわからない」を解消し、支援の方針と優先順位を明確にします

「10の支援方針」とは、生徒に対してどのような支援を行っていくかを、分類・明確化したものです。

その分類の背景には、「**環境**」「**身体**」「**心理**」「**学習**」という**4つの要因**があります。「10の支援方針」を選択するときは、まず「生徒にもっとも強い影響を与えている要因はどれか」と考えてください。

不登校という現象にはいくつかの要因が複雑に絡み合っている場合があります、アプローチもおのずと多面的になります。

しかし、このように支援方針を10種類に限定し、優先順位をつけることで、「**今、何に力を注いでいるか**」が明確になります。

同時に、生徒の反応や行動を見ながら、支援方針を調整するといった柔軟な対応が可能になります。

これまで教員各自の知見や経験によってまかなわれていた支援内容をカテゴライズすることで、教員間に共通の認識が生まれ、課題への根拠にもとづく明確な支援が可能になります。



施策【1】-2 4つの要因に当てはまるケース

前ページで説明した4つの要因は、具体的に以下のようなケースに該当します。
また、次ページの「10の支援方針」は、この要因と該当するケースの照合をベースに分類しています。

家庭など**環境面**に関する課題

【当てはまるケース】

家庭環境が不安定／家族との関係性が不安定／保護者が無関心 ……など

生活リズムなど**身体面**に関する課題

【当てはまるケース】

生活リズムが不規則／深夜の徘徊／ひきこもり／睡眠不足／慢性的な体調不良 ……など

心理面に関する課題

【当てはまるケース】

精神的な不調／情緒の不安定／人間関係のトラブル／自己否定／不安・悩み ……など

学習面に関する課題

【当てはまるケース】

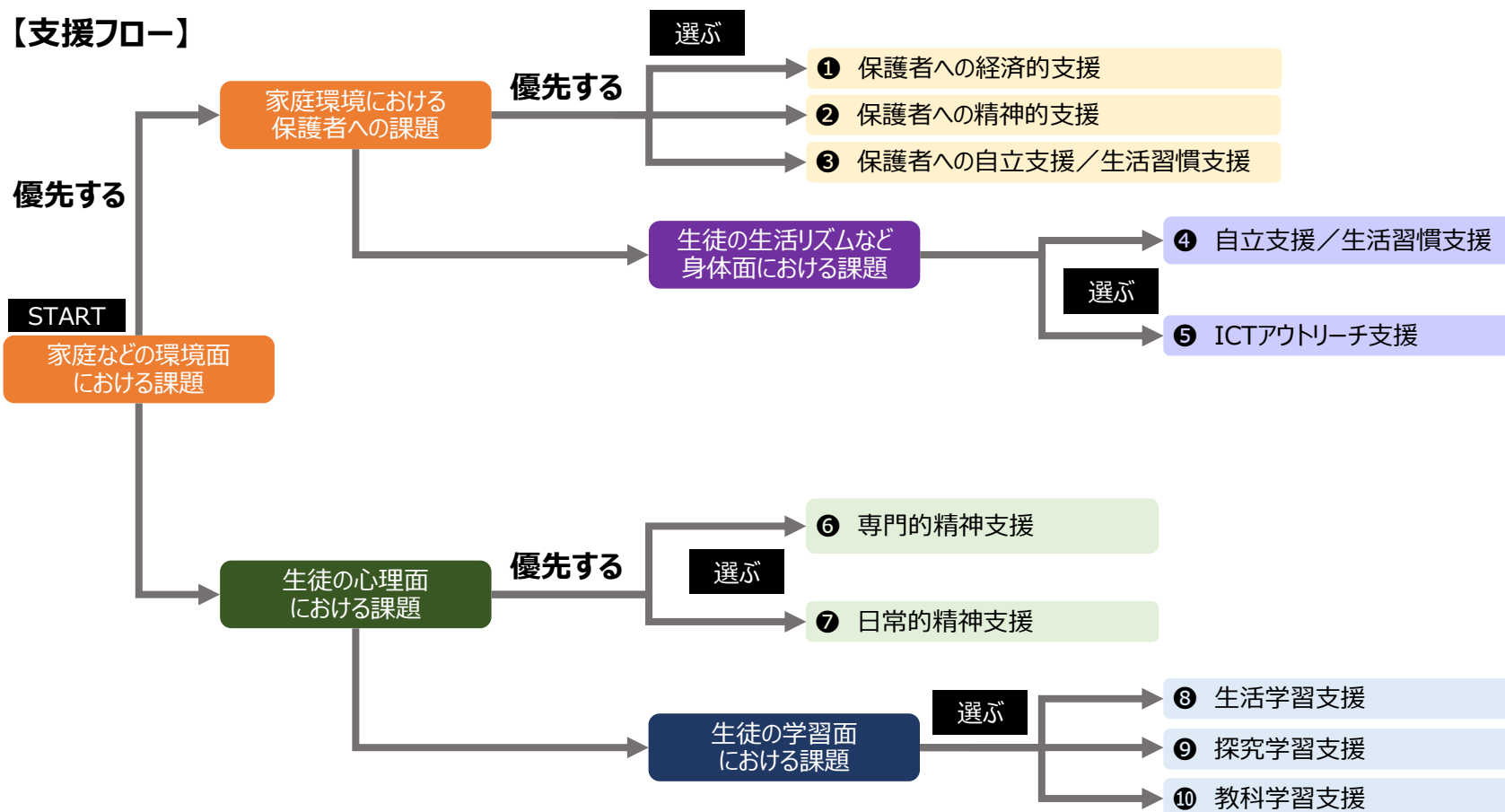
学習意欲の低下／授業内容についていけない／課題や宿題がこなせない ……など

施策【1】-3 「10の支援方針」の概要

支援番号と支援の方針		支援の概要
環境	① 保護者への経済的支援	保護者の経済的な困窮が、生徒の不登校要因に影響を及ぼしている可能性がある場合。必要に応じて、行政機関や福祉関係と連携し、保護者とのコミュニケーションをはかる。
	② 保護者への精神的支援	生徒の言動によって保護者が精神的に不安定な状態にあたり、逆に保護者の精神的な不安定さが生徒に影響を及ぼしたりしている可能性がある場合。スクールカウンセラー（SC）との面談をはじめ、行政機関や民生委員、医療関係などと連携し、保護者の精神的ケアをはかる。
	③ 保護者への自立支援／生活習慣支援	支援方針①②をふまえ、保護者の生活習慣の立て直しや社会的自立をめざし、継続的なコミュニケーションをはかる。生徒の養育環境を安定させることで、本人が安心して学びに対して意識を向けられる状況をととのえる。
身体	④ 自立支援／生活習慣支援	昼夜逆転の生活や、深夜の徘徊など、生活サイクルの乱れが不登校の一因となっている可能性がある場合。睡眠や食事に対するケアをしつつ、必要に応じてスクールソーシャルワーカー（SSW）や訪問支援を行う機関などと連携し、生活サイクルの立て直しと、将来を見据えた社会的自立をめざす。
	⑤ ICTアウトリーチ支援	ひきこもりの状態で家庭訪問をしても面会できないなど、生徒本人との直接的なコンタクトが難しい場合。インターネットを活用した、オンラインでの接触をはかる。学校管理のチャットなどでまずはコミュニケーションの糸口をさぐり、継続したアプローチで生活の立て直しをめざす。
心理	⑥ 専門的精神支援	精神的な面で課題を抱えており、SCをはじめとする専門家のケアが必要な可能性のある場合。SCのアドバイスをもとに、保護者と連携しながら継続的なサポートを目指す。状況によっては医療関係との連携もはかる。
	⑦ 日常的精神支援	日常生活のなかで起こりうる、さまざまな悩みや人間関係のトラブル、学習・進路相談など、生徒の精神的なサポートが必要な場合。養護教諭をはじめ、SCや支援員、インターンなどとの連携によって、窓口をより広げていく。
学習	⑧ 生活学習支援	「計画を立てて実行する」「必要なものを考え準備する」「買い物の計算をする」など、衣食住にかかわるライフスキルを磨くことを目的とした学習支援。ワークショップの活動を通じて、教科学習への接続や四則演算などの基礎学力の向上をはかる。
	⑨ 探究学習支援	生徒自身が興味を持ち、「知りたい」と思えるようなテーマを見つけ探究していくことで、学びへの意欲向上をめざす学習支援。具体的なテーマや指示を与えるのではなく、生徒本人がテーマや自分に合った学び方を見つけられるよう、ファシリタティブな伴走支援を行う。
	⑩ 教科学習支援	クラスの授業に参加できない生徒や、個別学習・自主学習を行う生徒へのサポートを目的とした学習支援。教科内容に関するサポートはもちろん、生徒の学習意欲の向上や、「何が壁になっているのか」という特性の把握も行う。

施策【1】-4 支援方針の選択に役立つ「支援フロー」

「支援フロー」とは、「10の支援方針」の選択に迷った際に、**優先順位を検討するためのチャート**です。生徒の状況と照らし合わせながら、優先度の高いニーズはどれかを探ります。ただし、家庭環境など優先度が高いもののどうしてもアプローチが届かないといった場合には、支援の手が届きやすい課題から取り組んだり、別の支援方針と並走させたりするなどの判断をしてください。

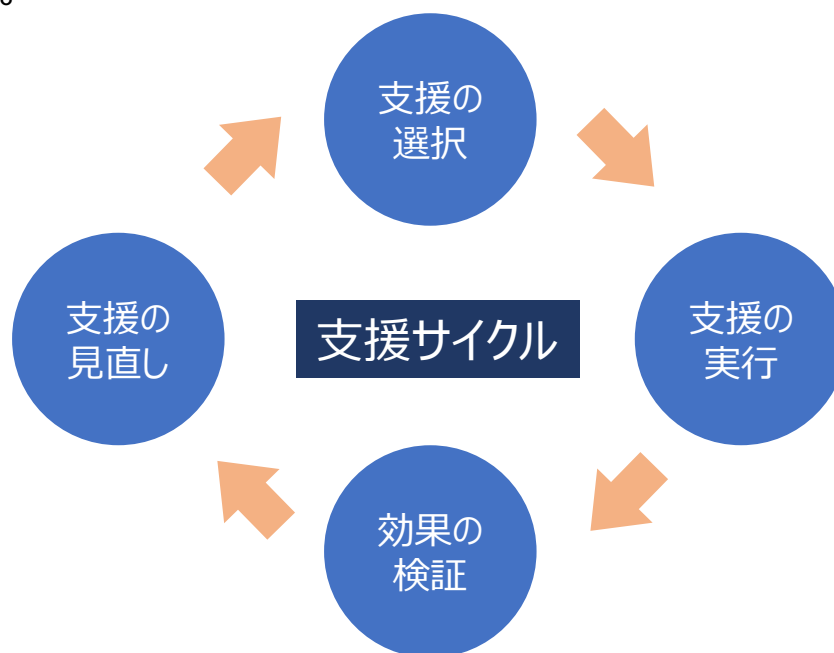


施策【1】-5 「10の支援方針」による支援の流れとサイクル

支援をくり返す流れ

- 【1】 「10の支援方針」と「支援フロー」を併用し、優先すべき支援を検討する。
- 【2】 支援方針が複数該当する場合は緊急性や課題、ニーズを優先する。
- 【3】 支援方針にもとづいて支援を実行する。
- 【4】 経過を観察して支援の効果を検証する。
- 【5】 状況に応じて支援方針を見直す。
- 【6】 支援方針を継続する、または、支援方針を変更する。

【1】～【6】をくり返すことによって、支援サイクルを継続して回していきます。また、定期的に「効果の検証と見直し」の機会を設け、「現在の支援方針は適切か」を検討します。



見取りや手立ての情報がバラバラで
支援の全体像が見えない……

施策【2】 情報共有プラットフォーム の活用

日々の見取りや手立ての記録をデータとして蓄積し、
その情報を共有することで、より有効な手立てにつなげる

施策【2】-1 情報共有プラットフォームとは

「10の支援方針」や、見取りと手立ての経緯を記録し 「いまどのような支援を行っているのか」を共有します

「情報共有プラットフォーム*1」とは、生徒に支援を行った際の見取りや手立ての記録をデータ化し、一元管理することで、**より適切な支援の選択に活かす**ためのシステムです。

「いつ、誰が、どのような手立てを行ったか」という支援の記録と、最新の支援方針を提示するページなどで構成されており、効果や生徒の状況の変化を共有できます。

【情報共有プラットフォーム 4つのメリット】

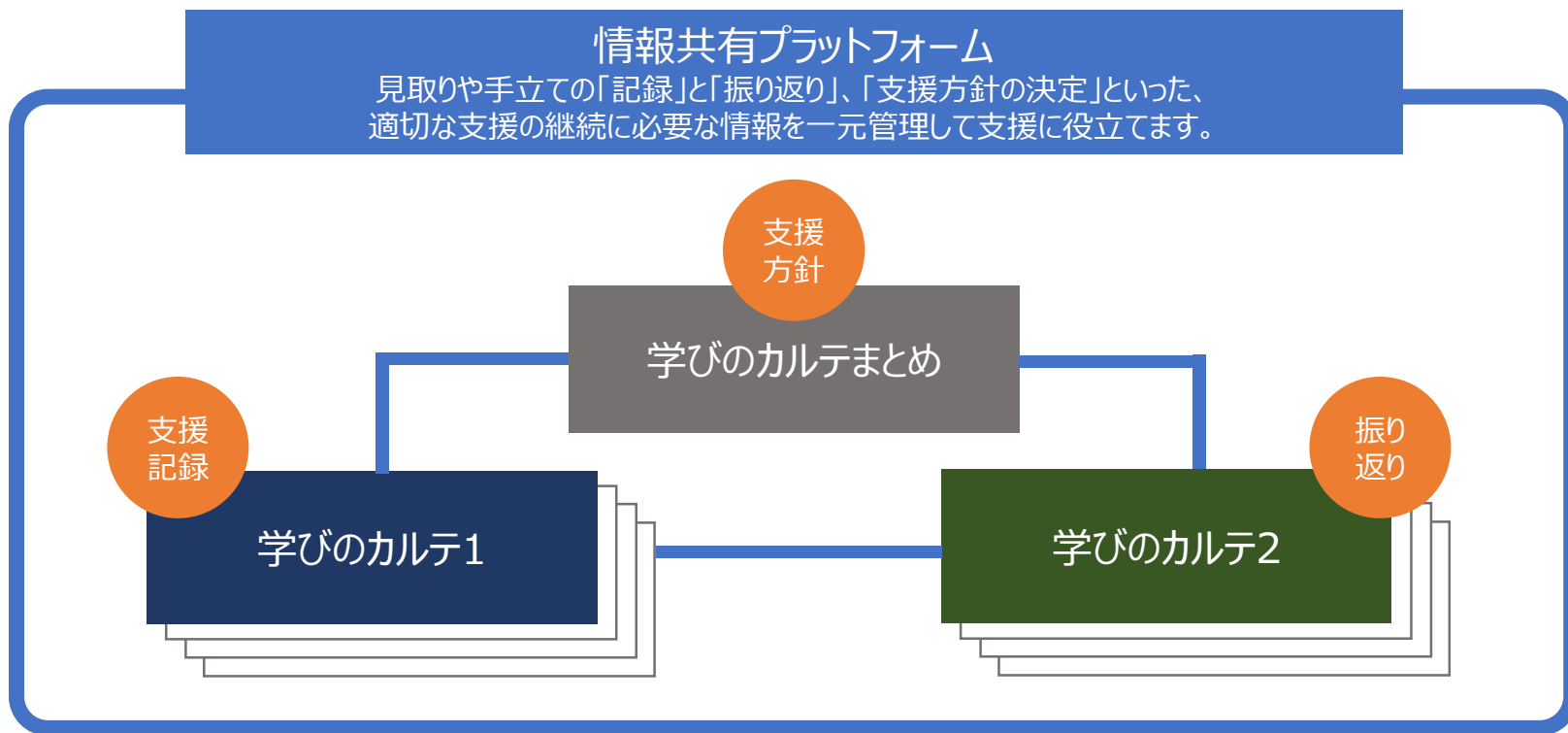
- 【1】 教員や協働支援者*2（インターンを含む）などによる、複数の介入記録を時系列順に閲覧できるので、生徒の変化を把握しやすい。
- 【2】 見取りや手立ての情報を共有することで、教員間の連携が強まり、有効な手立てを策定しやすくなる。
- 【3】 カルテの共通フォーマットに記録することで観点が統一され、手立ての効果検証や分析、評価が安定する。
- 【4】 カルテの更新頻度によって支援や介入の「停滞」が把握しやすいので、生徒の取りこぼしを回避できる。

*1 : Googleフォームやスプレッドシートを利用した情報管理システム。詳細は、Chapter2 を参照。

*2 : 支援チームの一員として協力を仰ぐ専門家または協力者の総称。詳細は、Chapter1 施策【3】-4を参照。

施策【2】-2 情報共有プラットフォームの全体像

情報共有プラットフォームは、最新の支援状態を把握するために記録する「**学びのカルテまとめ**」、支援の履歴をデータとして蓄積する「**学びのカルテ1**」「**学びのカルテ2**」の3つで構成されています。



【情報共有プラットフォームのコンテンツ】

- ◆「**学びのカルテまとめ**」… 対象となる生徒の基本情報や、最新の支援方針などを記録します。
- ◆「**学びのカルテ1**」……生徒への支援を実施した際に、支援者が記録し、支援の履歴として蓄積します。
- ◆「**学びのカルテ2**」……直前の支援の履歴を振り返り、支援方針の定期的な見直しを行います。

施策【2】-3 学びのカルテの種類と役割

情報共有プラットフォームで使用する3種類の「学びのカルテ」は、対象となる記入者や項目を以下のように設定しています。

学びのカルテまとめ

【主な項目】

- ・生徒の基本情報
- ・実施する支援方針と緊急性
- ・更新日

【対象となる記入者】

学年主任／生徒指導主事

基本情報		編成					身体		心理		学習		支援方針			
No.	氏名	学年	クラス	クラス担任	支援1	支援2	支援3	支援4	支援5	支援6	支援7	支援8	支援9	支援10	緊急性	更新日
1	A	3	31	〇〇先生	1										中軽	2022/2/11
2	B	2	21	〇〇先生		1	2			3					中軽	2022/2/11
3	C	1	11	〇〇先生							2			1	中軽	2022/2/11
4	D	3	31	〇〇先生											高	2022/2/11
5	E	3	33	〇〇先生		2				1				3	高	2022/2/11
6	F	1	12	〇〇先生				1			2				中軽	2022/2/11
7	G	2	22	〇〇先生							1			3	中軽	2022/2/4
8	H	3	34	〇〇先生		1			2						中軽	2022/2/11
9	I	3	34	〇〇先生										2	中軽	2022/2/11
10	J	3	32	〇〇先生		1						1			中軽	2022/2/11
11	K	2	21	〇〇先生						1					中軽	2022/2/11
12	L	3	31	〇〇先生											中軽	2022/2/11
13	M	3	31	〇〇先生	1	2	3								中軽	2022/2/11
14	N	3	32	〇〇先生							1	1			中軽	2022/2/11
15	O	3	33	〇〇先生											中軽	2022/2/11
16	P	3	34	〇〇先生									1	2	中軽	2022/2/11
17	Q	2	24	〇〇先生				1	2						中軽	2022/2/11
18	R	1	14	〇〇先生										2	中軽	2022/2/11

学びのカルテ1

【主な項目】

- ・見取りや実際に行った手立ての内容
- ・支援や対応についての緊急度

【対象となる記入者】

生徒を実際に支援または何らかの介入をした人

学びのカルテ1

学びのカルテは、生徒の日常の行動に見られる「現象」「原因分析」「手立て」に従って、日々の記録を共有するためのフォームです。
「学びのカルテ1」では、「現象」と「手立て」について、下記のそれぞれの項目（「環境」「身体」「心理」「学習」）ごとに入力して行って下さい。

hsaku39@gmail.com (共有なし) [アカウントを切り替える](#)

*必須

学びのカルテ2

【主な項目】

- ・手立ての効果の有無や、効果的だった手立ての内容
- ・支援方針の継続または変更の必要性

【対象となる記入者】

対象生徒のクラス担任

学びのカルテ2

学びのカルテは、生徒の日常の行動に見られる「現象」「原因分析」「手立て」に従って、日々の記録を共有するためのフォームです。
「学びのカルテ2」では、「学びのカルテ1」の記録をもとに「現象と手立てについて検討した結果」を入力します。学年会などでその検討・入力結果を確認しながら、支援方針について総括することになります。

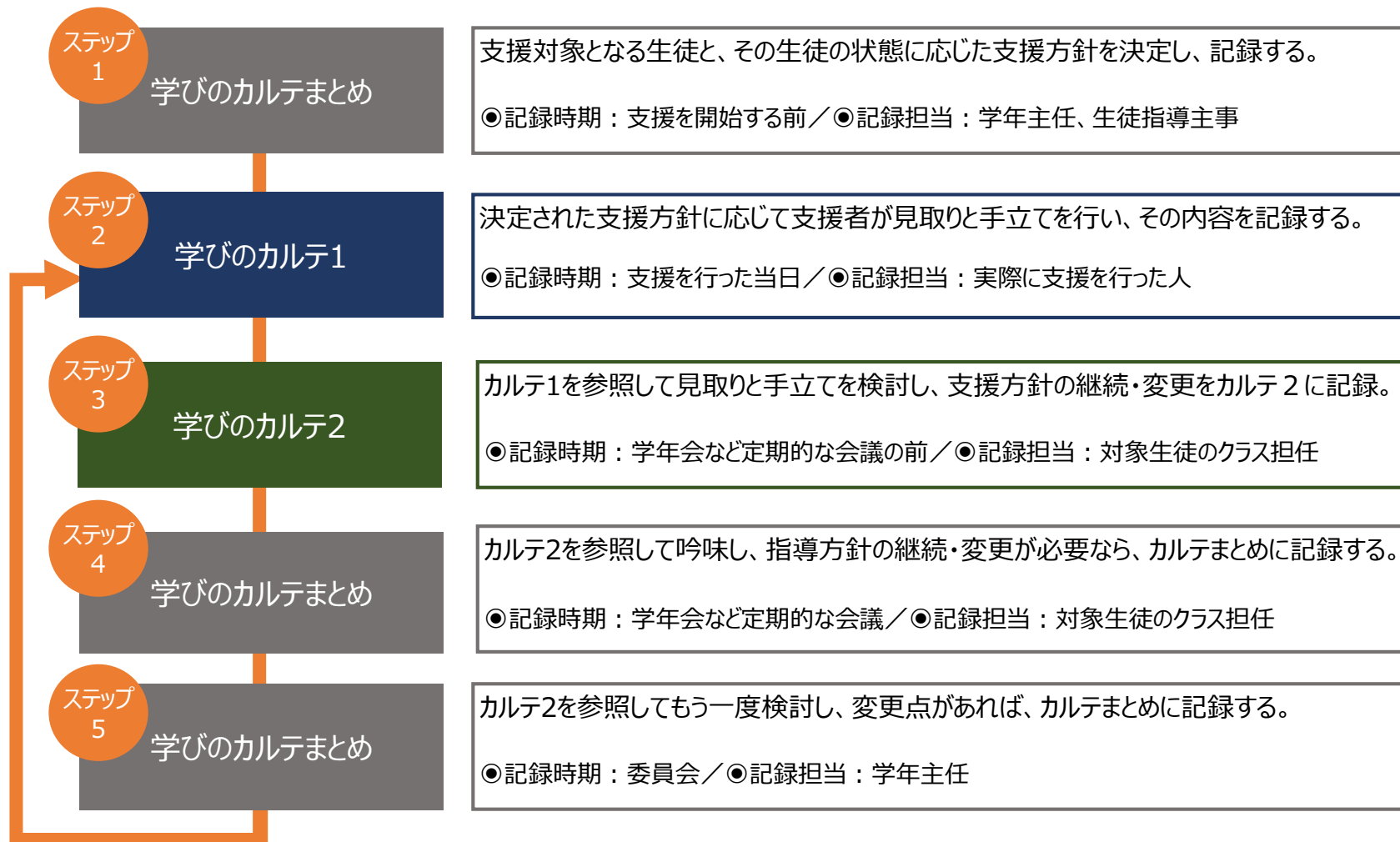
hsaku39@gmail.com (共有なし) [アカウントを切り替える](#) [下書きを復元しました](#)

*必須

施策【2】-4 情報共有プラットフォームを使った記録の流れ

3種類のカルテを活用することで、**支援の実施と記録、手立ての効果検証、支援方針の見直し**といったサイクルを、教員全体で共有しながら継続することができます。

情報共有プラットフォームを使った記録の流れ



支援や対応がバラバラで
一貫した支援を継続できない……

施策【3】 学びの場の提供と 支援体制のモデル化

多様な学びの場の提供と、チームとして支援サイクルを
回す体制をモデル化することで、一貫した支援を継続する

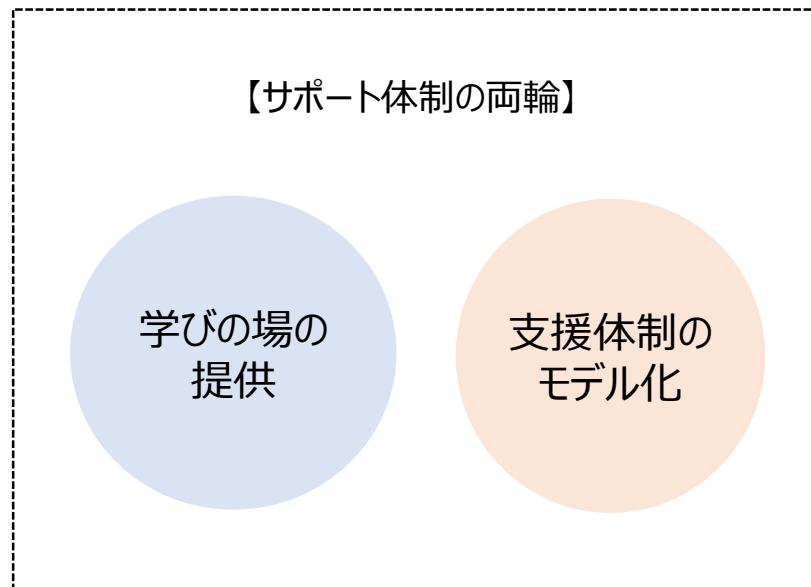
施策【3】-1 サポート体制の両輪

多様な学びの場の提供と支援体制のモデル化によって チームによる包括的なサポート体制が整います

不登校傾向が見られる生徒には、継続的な支援を実現するサポート体制が必要です。
このサポート体制を支える両輪となるのが、**学び場の提供**と**支援体制のモデル化**です。

「学びの場」とは、対象の生徒が心理的安全性を担保できる環境です。
生徒の実状に合わせて、たくさんの選択肢のなかから「学びの場」を提供します。

「支援体制」とは、教員を中心としたサポート体制です。
ここでは、スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）などの専門家、行政機関、医療機関などの支援者が含まれます。
また、地域の大学などと連携することで、インターン（大学生）にもサポート役として参加してもらうことをめざします。



施策【3】-2 多様な「学びの場」の提供

生徒の「学びの場」とは、**心理的な安全性が担保される場**のことです。そのため、生徒に適した「学びの場」には多様性があります。「学校に登校すべき」と決めつけず、生徒が安心して学べる場を探してください。以下は、校内、校外、自宅における「学びの場」のおもな選択肢です。

学びの場の 選択肢	校内	普通教室	一般的なカリキュラムに沿って、学校が定めたクラスに分かれて学ぶ場
		校内フリースクール	生徒自身が時間や内容、方法を決めて、自分に合ったペースで学ぶ場
		特別支援学級	障がいの特性に応じて将来の自立に向けた生きるための力を身につける場
	校外	通級指導教室 (校内／校外)	普通学級に在籍しながら、学習障がいや言語障がいといった特性に応じて、課題や困難さの改善・解消をめざした学びの場
		教育支援センター	地域の教育委員会による、学校への登校が難しい生徒のための学びの場
		民間フリースクール	学校への復帰や個別学習など、さまざまな目的や機能を擁する学びの場
	自宅	放課後等デイサービス	障がいや発達の特徴がある生徒が、生活能力向上などをめざす学びの場
		オンラインによる 学校授業への参加	学校が配布している端末を使用し、授業のオンライン配信や校内フリースクールの活動などに参加。デジタル教材を活用して学ぶ場
			オンライン学習塾 (民間)

施策【3】-3 校内フリースクール（支援ルーム）

登校しても教室へ入ることに抵抗のある生徒や、クラスでの授業に参加できない生徒のために、**校内フリースクール（支援ルーム）**を設置する試みが広がっています。空いている教室を利用して、居心地のよい学びや交流の場を提供するという新しい試みです。

この校内フリースクール（支援ルーム）の担当は、**支援ルーム担任**が行います。

「支援ルーム担任」とは？

教務主任または生徒指導主事など、受け持つ授業時数が少なく、支援の全体をコーディネートできる教員が担当することが望ましい。

城東中における実例

ふれあいルーム



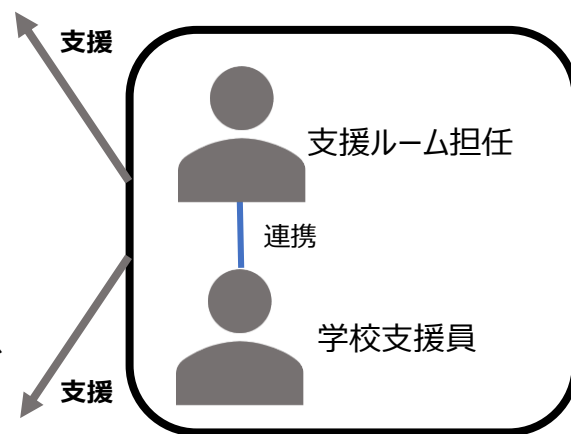
自主学習や学習支援、悩み相談など、生徒自身の意思を尊重しつつ、**個別最適な過ごし方ができる教室**。登校してきた生徒と教員のコミュニケーションの場としても重要な役割を果たしている。

チャレンジルーム



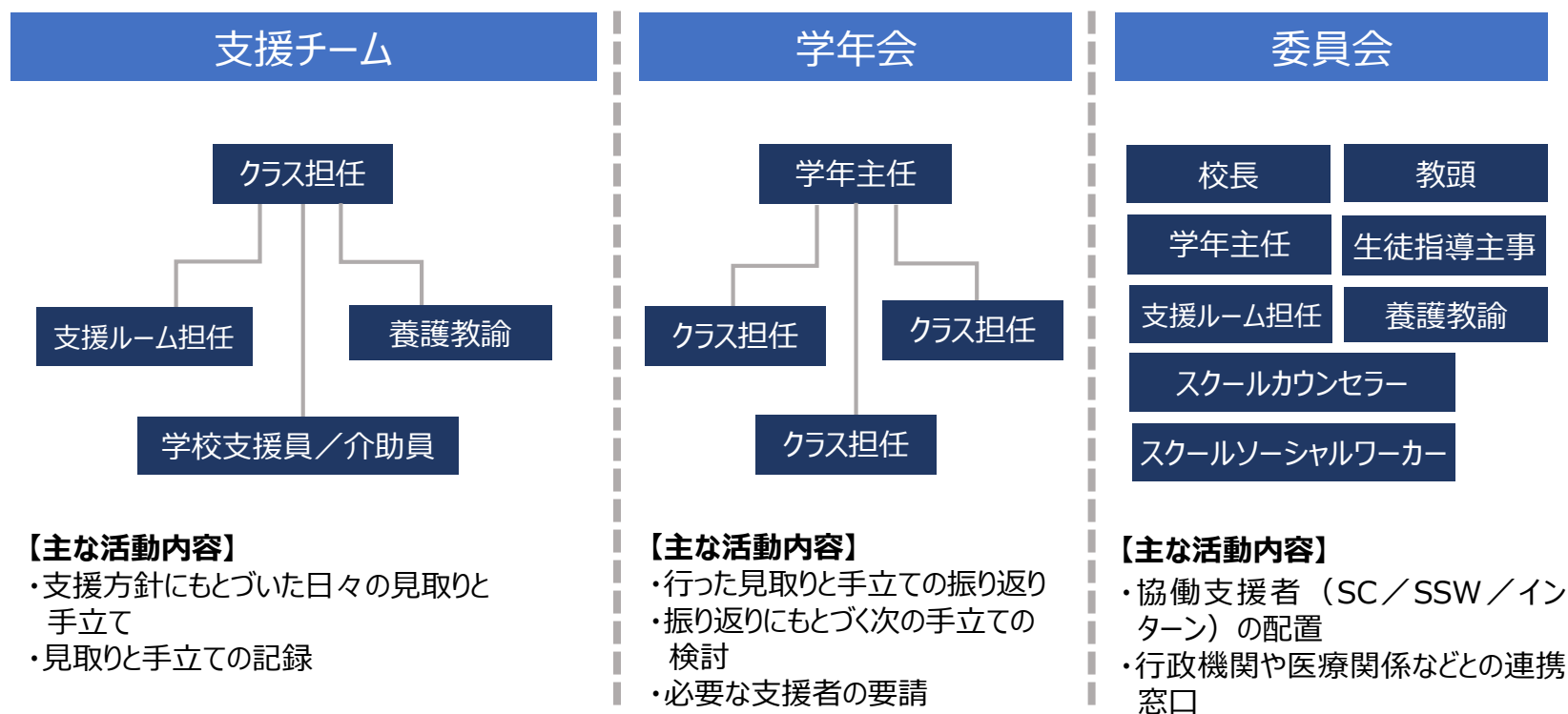
生徒が自分で決定
個別最適化

自主学習や、クラスで行われている授業にオンラインで参加するなど、**生徒が学習に集中するための教室**。支援ルーム担任やクラス担任、教科担任と相談したうえで、課題やプリントを使って学習できる。



施策【3】-4 チームによる支援体制

支援体制は、生徒に具体的な介入を行う「支援チーム」と「学年会」、支援の促進をサポートする「委員会」で構成されます。支援方針や状況に応じて、協働支援者や関連機関と連携しながら支援を行います。



支援方針や
状況に応じて連携

【協働支援者や関連機関】

- ◆ スクールカウンセラー
- ◆ スクールソーシャルワーカー
- ◆ 訪問支援員
- ◆ 民生児童委員
- ◆ 教育委員会
- ◆ 行政機関
- ◆ 医療機関
- ◆ 福祉関連
- ◆ NPO法人
- ◆ 民間フリースクール
- ◆ 放課後等デイサービス
- ◆ インターン など

施策【3】-5 協働支援者・関連機関との連携

「10の支援方針」に必要な専門家などの協働支援者や関連機関を以下のように想定しています。連携をはかる際は以下の担当者（特に生徒指導主事）が**コーディネーターの役割**を果たします。
支援方針①～⑤の場合、スクールソーシャルワーカー（SSW）の協力を得て適切な連携先を選定します。

10の支援方針	連携の窓口	協働支援者／関連機関
① 保護者への経済的支援		スクールカウンセラー、教育委員会、行政機関、医療機関、福祉関係、民生児童委員、NPO法人、訪問支援員 など
② 保護者への精神的支援		
③ 保護者への自立支援／生活習慣支援		
④ 自立支援／生活習慣支援		
⑤ ICTアウトリーチ支援		
⑥ 専門的精神支援		スクールカウンセラー、医療機関 など
⑦ 日常的精神支援		スクールカウンセラー、インターン など
⑧ 生活学習支援		インターン、民間フリースクール、放課後等デイサービス など
⑨ 探究学習支援		
⑩ 教科学習支援		

施策【3】-6 SCとSSWの役割

スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）と連携することで、より適切なタイミングの支援が可能になります。現在、SC・SSWが配置されている場合も、さらに関与の機会を増やす努力が必要です。もし、配置されていない場合は、自治体、教育委員会等に要請し、**支援体制の整備**を目指します。また、NPO法人をはじめ、民生児童委員や訪問支援員などとの連携も視野に入れて検討してください。

生徒指導主事

- ・必要となる情報の提供
- ・カウンセリング機会の設定
- ・生徒へのフォロー など

↓

スクールカウンセラーの概要

「個」に深くかかわる心理の専門家

【資格】
臨床心理士／公認心理師／（学校心理士）
精神科医師／心理専門大学教員

【主な活動内容】

- ◆ 児童生徒のアセスメント、カウンセリング
- ◆ 保護者のアセスメント、カウンセリング
- ◆ 教職員への助言
- ◆ ケース会議等への参加
- ◆ 専門機関への紹介
- ◆ 教職員資質向上のための講話

生徒指導主事

- ・必要となる情報の提供
- ・保護者との意思疎通
- ・生徒へのフォロー など

↓

スクールソーシャルワーカーの概要

「関係性」に働きかける福祉の専門家

【資格】
精神福祉士／社会福祉士

【主な活動内容】

- ◆ いじめ、不登校などの課題を抱える児童生徒の把握
- ◆ 学校、家庭、専門機関等への連携ネットワーク調整
- ◆ 児童生徒の相談
- ◆ 保護者、教職員の相談・助言
- ◆ 学校支援アドバイザー等の活動支援、協働

参考：公認心理師 澤栄美氏「困難を抱える子どもの理解と支援体制について考える」研修資料

施策【3】-7 NPO法人、民生児童委員、訪問支援員の役割

教員だけでは対応が難しい訪問支援、保護者のケアに関しては、不登校やひきこもりの若者を対象としたサポートを行っている**NPO法人、民生児童委員、訪問支援員などとの連携**を心がけます。

NPO法人

不登校やひきこもりの若者に対し
地域ネットワークを活かした支援を行う

【主な活動内容】

- ◆ 不登校・ひきこもりの生徒の訪問支援
- ◆ 保護者の相談、心理的なケア
- ◆ 社会参加や就労・自立への支援
- ◆ 居場所の創出や確保

民生児童委員

地域の子どもたちの育成を見守り
児童福祉に関する支援を行う

【主な活動内容】

- ◆ 地域の子どもの見守り
- ◆ 子育てに関する相談
- ◆ 見守りのための訪問活動
- ◆ 福祉関係との連携

訪問支援員

第三者の立場による訪問支援
(アウトリーチ)を専門に行う

【主な活動内容】

- ◆ 不登校・ひきこもりの生徒への訪問支援
- ◆ 地域若者サポートステーションとの連携

城東中における事例

◆SCの稼働日数を増強

生徒のカウンセリングを受けられる機会を増やすため、週1回・3時間の登校枠を週2回・計6時間に拡大した。対象生徒の支援内容や支援方針について、教員と協議する機会も設けた。

◆NPO法人との協働支援

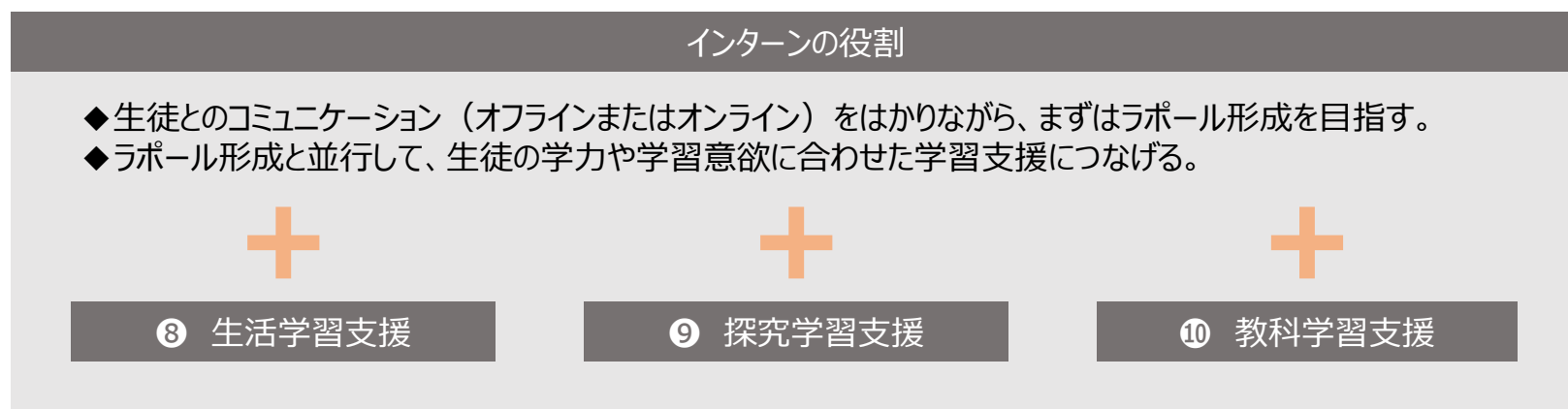
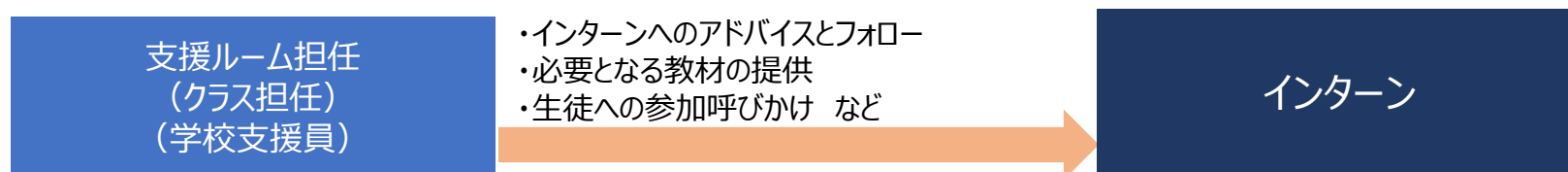
子ども・若者・家族の支援を行うNPO法人と連携し、支援方針①～⑤の対象となっている生徒への家庭訪問や、保護者の心理的なケアを行った。

◆民生児童委員との協働支援

不登校の生徒に対する家庭訪問や自立支援といった新たな連携の可能性を検討しながら、実現に向けた協議を行った。

施策【3】-8 インターン的作用

インターンは教員と連携しながら、支援方針⑧⑨⑩における「学習支援」で重要な役割をにないます。また、「ラポール形成」にかかわる活動を通じて生徒との信頼関係をはぐくみ、心理面でもサポートします。



インターンの募集（人材確保）について

教育学部が置かれている地域の大学と連携をはかり、教職課程の学生の協力を得て「インターン」として参加してもらいます。この支援活動が単位認定されることが理想ですが、ボランティア活動として参加を希望する学生を募る方法もあります。また教職課程の学生に限定せず、支援内容に適した人材を広く募集するという方法も検討できます。

施策【3】-9 インターンによる学習支援

インターンによる学習支援に期待される成果

生徒一人ひとりに合わせた伴走支援で学習意欲の向上をめざせる

「授業についていけない」「勉強したくない」など、学習への意欲低下は不登校の大きな要因となっています。インターンの伴走支援により**学習意欲が向上する**場合があります。

教員や保護者、同級生とは異なる新たな関係性を築ける

教員や保護者、同級生とは異なる「大学生」というポジションだからこそ、**新たな関係性が生まれる**可能性があります。「ラポール形成」により、心の壁が取りはらわれれば、新たな一面を見せてくれる可能性があります。

インターンが教育実習とは異なる経験値を得られる

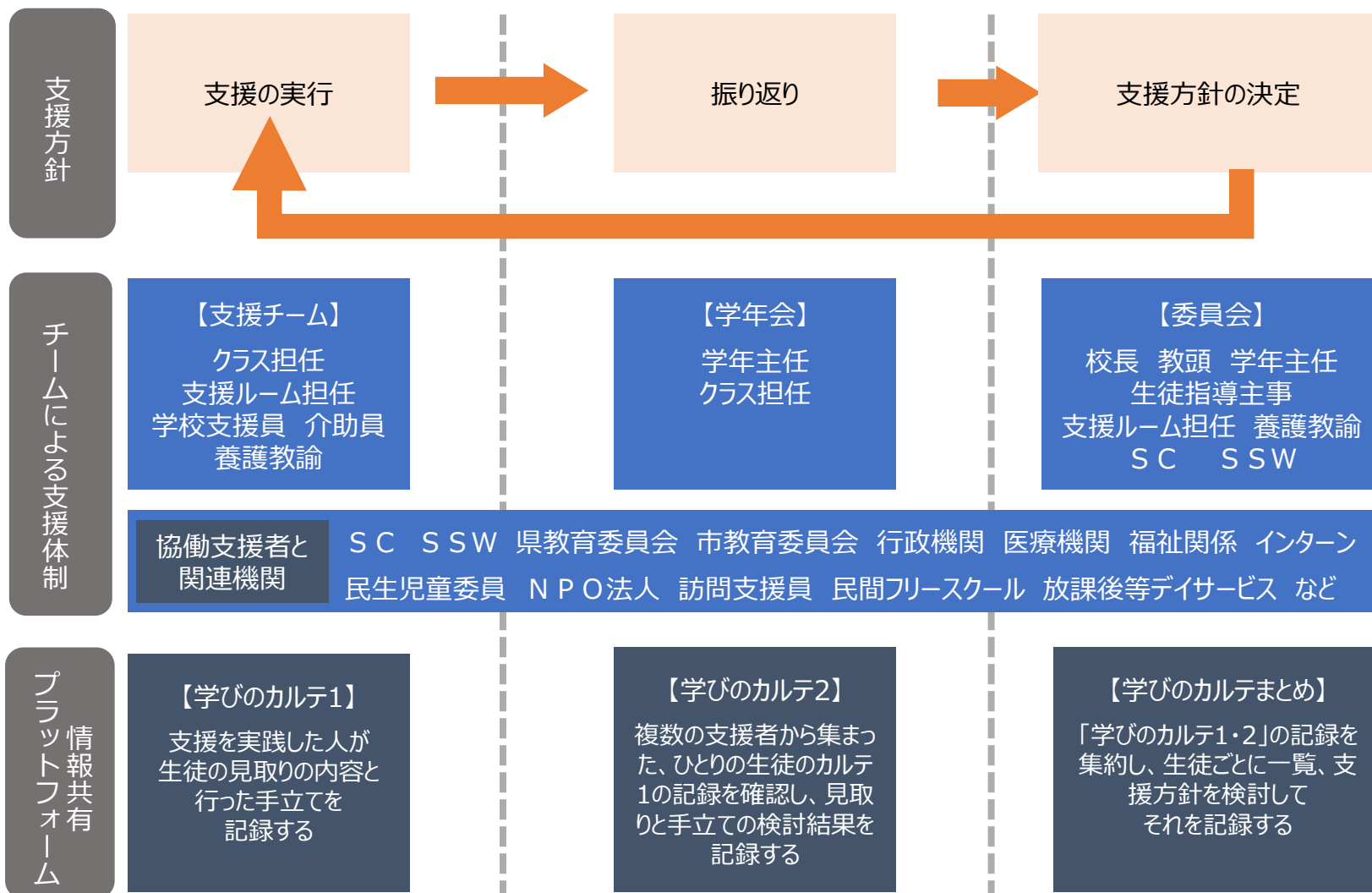
教員を志望しているインターンにとっては、通常の教育実習とは異なる経験や知見を得られる貴重な機会となります。また、日頃から生徒に真剣に向かい合う教員たちと行動をとることで、将来の**教育現場を担う人材**を育成する結果が期待できます。

城東中における実例

- ◆広島大学・教育学部に在籍の学生8名がインターンとして参加しました。
- ◆1チーム4名、週2回の登校でスタートし、最終的には1チーム2名が毎日登校する体制として定着しています。

施策【3】-10 包括的な支援の流れとサイクル

「チームによる支援体制」と「情報共有プラットフォーム」を活用した支援の流れをモデル化しました。支援方針は、こうした取り組みすべてにかかわっており、チーム運営の「指標」となります。



どのようなタイミングでSCやSSWに
つなげばよいのか、わからない……

施策【4】 専門的ケアの理解を 深める研修

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどが
はたす役割への理解を深め、スムーズな外部連携をはかる

施策【4】-1 専門的ケアの研修

**発達心理の専門家たちの観点を知ること、
連携の際の意思疎通がスムーズになると同時に、
教員全体のスキルを高めます**

スクールカウンセラーをはじめとする発達心理分野の専門家やコーチングの専門家が、日頃、どのような観点で生徒の見取りや介入を行っているのかを理解することで、コミュニケーションの質が上がり、**より綿密な連携ができる**ようになります。

また、このような研修は教員全員を対象にしており、学校全体でコミュニケーションや見取りのスキルを高めるという目的もあります。

「城東中モデル」では、以下の3つの研修を実施しました。

専門的ケアの理解を深めるための研修（城東中の場合）

【1】 困難を抱える生徒への理解とチーム連携の重要性

【2】 コーチングに対する理解とスキルアップ

【3】 生徒の「困り感」を把握する、見取りと見立ての方法

施策【4】-2 研修テーマの実例

研修テーマ【1】

困難を抱える生徒への理解と チーム連携の重要性

生徒の問題行動の背景にあるさまざまな要因や、チームによる支援体制が大切な理由を知り、共有します。

【研修内容】

- ◆ 発達の課題などを抱える子どもの背景にある心理と要因
- ◆ 育ちの課題（養育環境）／発達特性／愛着障がいについて
- ◆ 問題行動への対処方法
- ◆ 組織としての教育相談体制とそのアイデア など

【研修を依頼する専門家の例】

- ・公認心理師
- ・学校心理士
- ・養護教諭
- ・スクールソーシャルワーカー

研修テーマ【2】

コーチングに対する理解と スキルアップ

コーチングの概念を理解し、生徒とのコミュニケーションの質を高めます。同時に、発問や傾聴、指導の際に必要なとなる、コーチングの具体的なスキルを学びます。

【研修内容】

- ◆ コーチングとは何か（カウンセリング、ティーチングとの違い）
- ◆ 発問と傾聴の重要性
- ◆ 子どもたちの欲求レベルを理解する
- ◆ 不承認と指導のモデルケース など

【研修を依頼する専門家の例】

- ・教育コーチング研修の講師
- ・大学をはじめとする教育機関でコーチング教育やアクティブ・ラーニングを専門とする有識者

研修テーマ【3】

「生徒の困り感」を把握する、 見取りと見立ての方法

「生徒の困り感」をキャッチするために必要な視点を学びます。また、さまざまな事例から、見取りと見立ての方法を実際にシミュレーションします。

【研修内容】

- ◆ 学校の中の心理職とは？
- ◆ 「見立て」のために必要な視点とは、どのようなものか
- ◆ 実際のケーススタディ（事例）
- ◆ 見取りのシミュレーション
- ◆ 見立てのシミュレーション など

【研修を依頼する専門家の例】

- ・公認心理師
- ・学校心理士
- ・特別支援アドバイザー

日々の見取りだけでは、生徒の
現状を把握できない……

施設【5】 アセスメントによる 個別最適化

生徒の状態を把握して不登校の予防に役立てる。
または、生徒の個性に合わせた学びの機会を提供する

施策【5】-1 アセスメントによる個別最適化

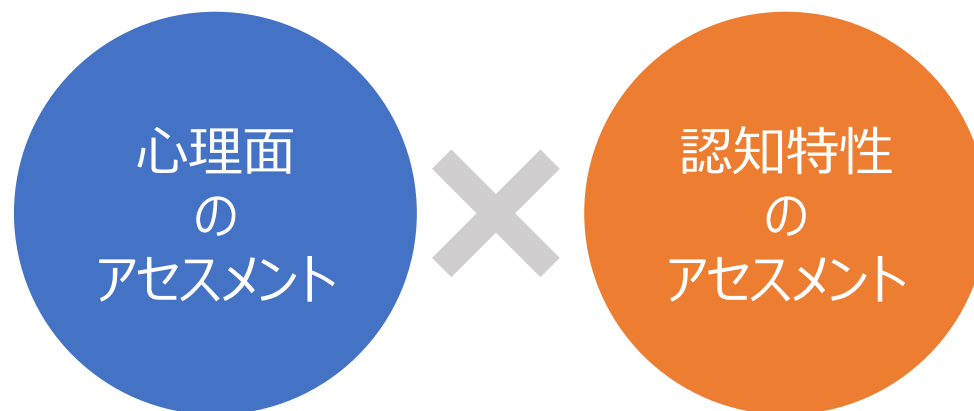
日々の見取りだけではキャッチするのが難しい
心理面での変化や認知特性を、
アセスメントツールの活用によって視覚化し、支援につなげます

コミュニケーションが苦手な生徒や、自分から意思表示をすることができない生徒の**心理を推し量る**のは難しいものです。

また、一人ひとりに適した**学びのスタイルや認知特性**（五感から入る情報を整理するときの個人の特徴）を見取りだけで判断するのは困難です。

このような、個人の特徴をつかまえるために、アセスメントは有効です。

心理面や認知特性のアセスメントの結果を頭に入れておくだけで、個人の特徴に合わせた支援に役立てることができるようになります。また、生徒がアセスメントに参加することで、自分自身と向き合う体験ができます。



施策【5】-2 アセスメントの分類と目的

アセスメントは、大きくわけて「**心理面**」と「**認知特性**」の2つに分類できます。
目的に合わせて、対象となる生徒や実施のタイミングを検討してください。

心理面のアセスメント

【目的】

まだ表層化していない生徒の不安や心理状態を、事前にキャッチする。

具体的には？

- ◆ 不登校やいじめの予見・予防
- ◆ 自分から教員に相談できない生徒のコミュニケーションの糸口をつくる

【実施のタイミング】

- ◆ 新学期や学期末など、生徒を取り巻く環境や心理に変化が起こりやすい時期
- ◆ 支援方針⑥「専門的精神支援」に該当する生徒で、アセスメントが必要と感じられる場合 など

認知特性のアセスメント

【目的】

興味関心や思考のスタイル、得意な情報処理の方法（認知特性）を知ること、生徒が自分に合った学び方を見つける

具体的には？

- ◆ 学習意欲の向上
- ◆ 苦手意識に対するサポートと対策
- ◆ 「個才」を活かした学び

【実施のタイミング】

- ◆ 支援方針⑧～⑩「学習支援」を行う際に、生徒の特性をより活かした支援へつなげる場合
- ◆ インターンと生徒とのラポール形成にあたり、コミュニケーションツールとして活用する場合 など

施策【5】-3 アセスメントの例

心理面のアセスメント

『こころの問診票』※研究段階

日本学校心理士会 熊本支部/
九州ルーテル学院大学

【アセスメントの概要】

◆60問の質問に、マークシート形式で回答

【アセスメントの活用項目】

- ① 不登校の要因
- ② 登校のモチベーション
- ③ いじめの把握
- ④ 問題行動の理解
- ⑤ 学習の状態や困難性
- ⑥ クラスへの適応
- ⑦ 抑うつの強さ
- ⑧ ストレスの場所
- ⑨ 行動の特性（ADHD／自閉スペクトラム症などの可能性）
- ⑩ 虐待の可能性

認知特性のアセスメント

『スペースQ 学びのポートフォリオ』※研究段階

東京大学客員研究員
福本理恵氏（株式会社SPACE代表）

【アセスメントの概要】

◆ネットにアクセスし、専用フォームから質問に回答

【アセスメントの活用項目】

- ① 8つの力（発揮しやすい強み）
- ② 興味が向きやすいSTEAM領域
- ③ 思考のスタイル
（機能／形態／水準／範囲／傾向）
- ④ 認知特性（情報の受け止め方と発信の仕方）
- ⑤ 学習の方法
- ⑥ 好奇心のスタイル